

## 第3章 まちの概況

### 3-1 概要

#### (1) 沿革

広大な武蔵野台地の南部に位置する調布市の地形は、多摩川によって形成された2つの段丘と沖積低地からなります。段丘と段丘、段丘と低地の境には「はけ」と呼ばれる急な崖があり、「はけ」から湧き出す水や、その流れに沿って、はるか昔から人々の暮らしが営まれてきました。

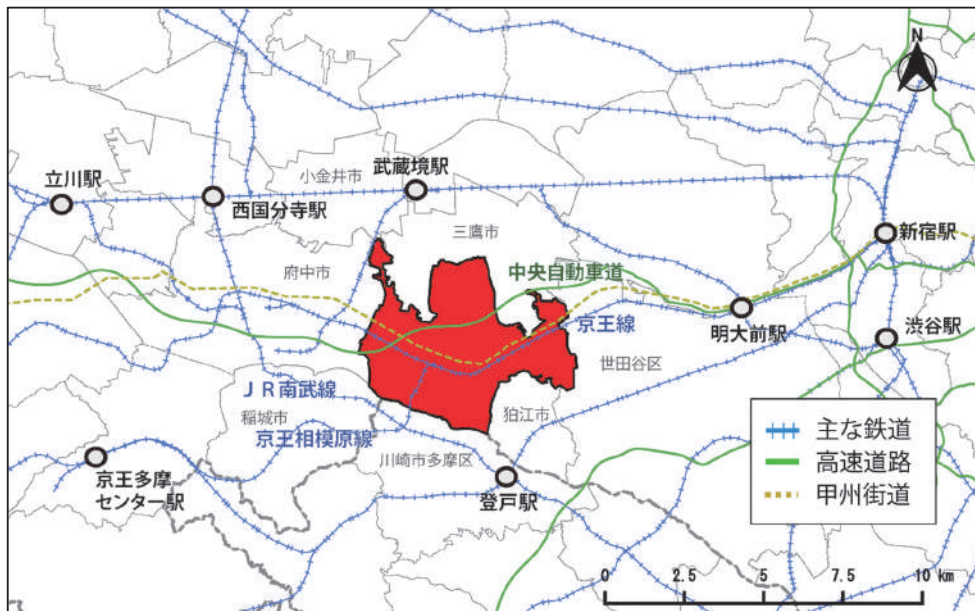
大正2(1913)年、京王電気軌道(京王線)の笹塚から調布間が開通し、調布市域はこのころから行楽地・郊外住宅地として注目されました。大正12(1923)年の関東大震災をきっかけに多くの人々が移り住み、戦後の昭和30(1955)年、調布町と神代町が合併し、「調布市」が誕生しました。高度成長期に団地が造られ、人口が急増していきました。

平成24(2012)年8月に京王線の柴崎駅～西調布駅間の約2.8kmの区間と、調布駅～京王多摩川駅間の約0.9kmの区間が地下化され、調布駅・布田駅・国領駅をつなぐ貴重な都市空間が創出され、各駅前広場の整備、鉄道敷地の利用が進んでいます。令和2(2020)年に市制施行65周年を迎え、今なお発展を続けています。

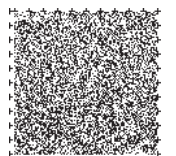
#### (2) 位置

東京都のほぼ中央、多摩地区の南東部に位置し、新宿副都心へ約15キロメートルの距離にあります。市の東は世田谷区と狛江市、北は三鷹市、小金井市、西は府中市、南は多摩川をはさんで稲城市、神奈川県川崎市に接しています。京王線・京王相模原線が通るほか、甲州街道が東西を通り、中央自動車道の調布インターチェンジもあります。

広域的な位置図



出典：国土数値情報



## 3-2 自然条件

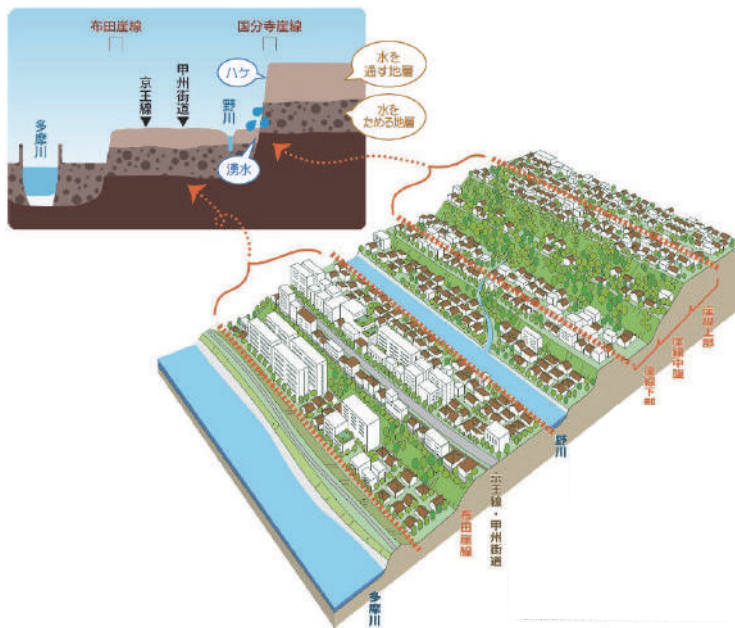
### (1) 地形・水系

調布市の地形・水系は国分寺崖線や野川、多摩川によって骨格が形成された多摩川水系に位置しており、北部では、比較的標高が高い台地に、南部は河川沿いを中心に低地となっています。

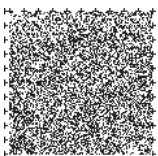


出典：  
等高線は地理院タイル(標高タイル)を「WEB等高線メーカー」サイトで作成  
河川は平成29年度土地利用現況調査

### 崖線のイメージ図



出典：調布市景観形成ガイドライン(緑の景観づくり国分寺崖線編)(令和2年3月)

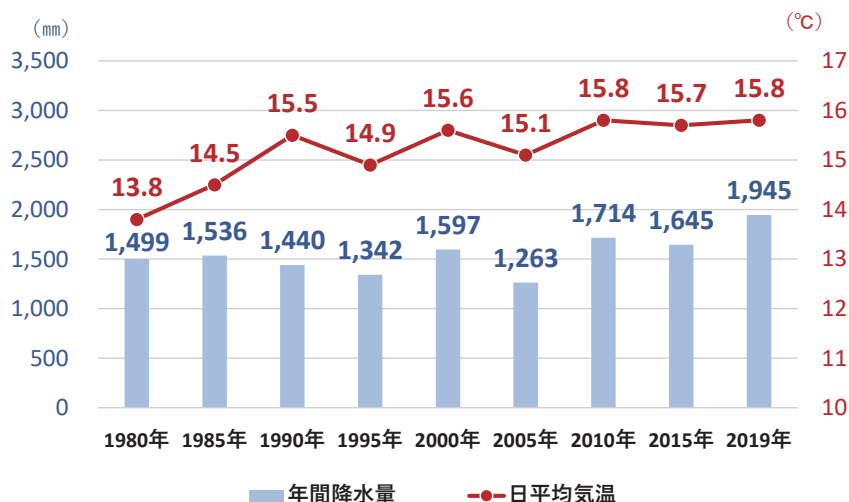


## (2) 気象

調布市付近の気候（府中観測所のデータによる）は、近年の平均気温は 15℃台、年間降水量は 1,600 mm～2,000 mm程度で推移しており、中長期的にはどちらもやや増加傾向にあります。

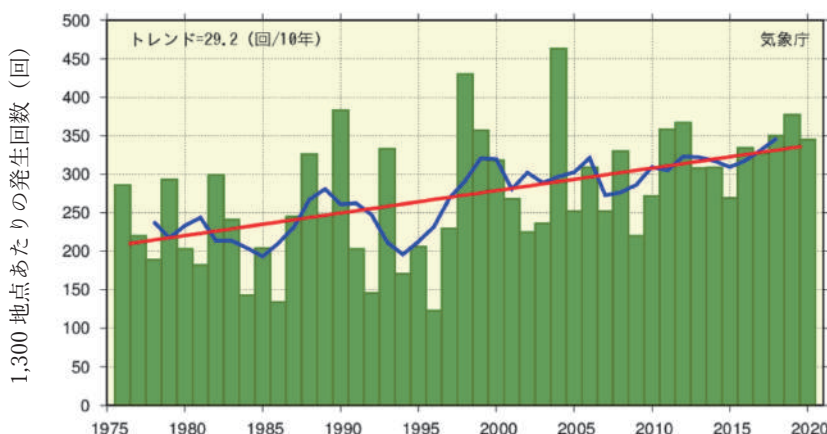
大雨や猛暑日など（極端現象）のこれまでの変化をみると、全国の 1 時間降水量 50 mm 以上の年間発生回数は増加傾向にあります。最近 10 年間（2011～2020 年）の平均年間発生回数（約 334 回）は、統計期間の最初の 10 年間（1976～1985 年）の平均年間発生回数（約 226 回）と比べて約 1.5 倍に増加しています。

年間降水量と日平均気温の長期的な推移



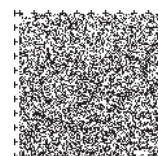
出典：気象庁 府中観測所のデータをもとに作成

全国（アメダス）の 1 時間降水量 50mm 以上の年間発生回数



出典：気象庁ホームページ「大雨や猛暑日など（極端現象）のこれまでの変化」

※棒グラフ（緑）は各年の年間発生回数（全国のアメダスによる観測値を 1300 地点あたりに換算した値）。直線（赤）は長期変化傾向（この期間の平均的な変化傾向）を示します。これらの変化には地球温暖化の影響の可能性があります。アメダスの観測期間は約 40 年と比較的短いことから、地球温暖化との関連性をより確実に評価するためには今後のさらなるデータの蓄積が必要となります。



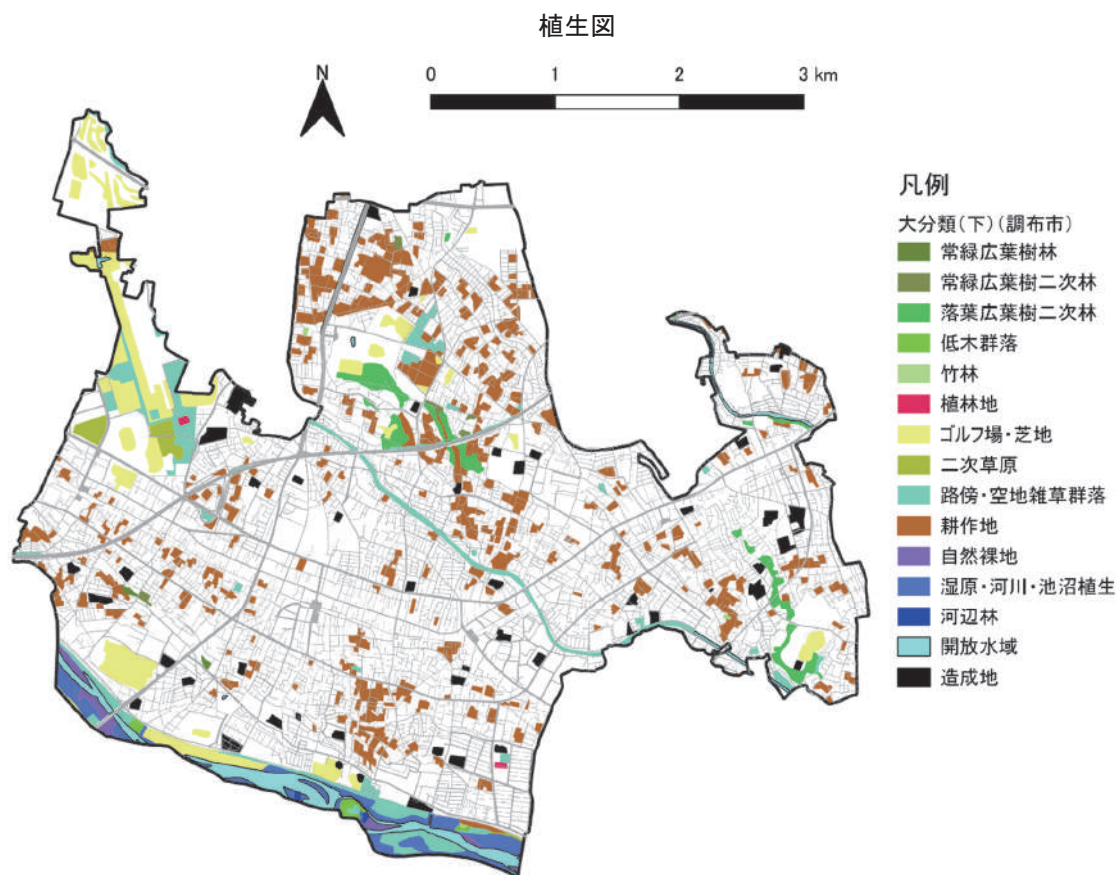
### (3) 生態系

植生の特徴は、広域なものとしては、耕作地が市全域に広がるほか、ゴルフ場・芝生が調布飛行場・東京スタジアム（味の素スタジアム）周辺及び多摩川沿いに多くなっています。多摩川や野川沿いには雑草群落が分布しています。崖線には落葉樹林が分布しており、生態系として重要な緑になっています。

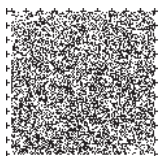
崖線では重要種も確認されており、アイアスカイノデやイワヒメワラビ等のシダ類、キンランやギンランなどのラン科植物、ホトトギスやカタクリ等のユリ科植物、その他キツネノカミソリ、アマナ、ワダソウ、イカリソウ、ワニグチソウといったものがあります※。

動物はアズマモグラ、アライグマ、ホントタヌキ、ノネコ、ニホンカナヘビ、ニホンヤモリ等が確認されており、ニホンカナヘビ、ニホンヤモリは重要種、アライグマは特定外来種になります。鳥類の重要種としては、アオバト、アカゲラ、アオゲラ、モズ、ヤマガラ、ウグイス、エナガが確認されています。昆虫類の重要種は、ヒグラシとコシロシタバが、特定外来生物としてアカボシゴマダラが確認されています※。

※平成 26～30 年度にかけて市内各地の崖線で実施された生態調査報告書より



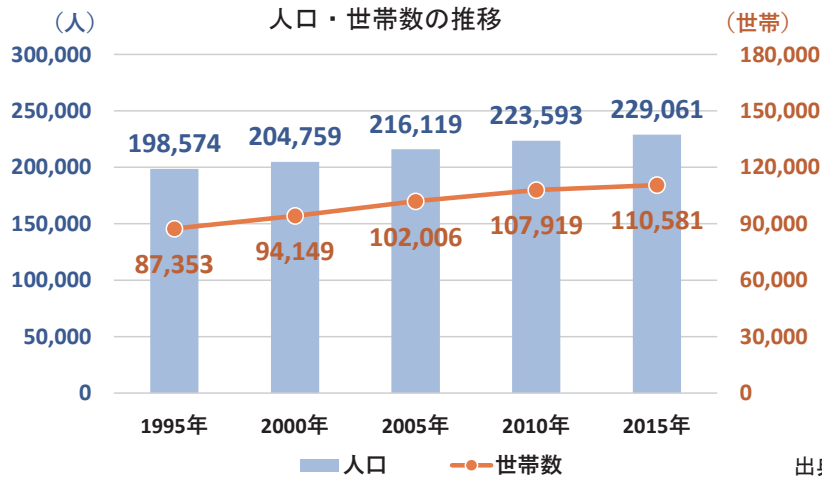
出典：環境省生物多様性センター 第6-7回植生調査（25,000分の1） ※調布市域は平成21年度に実施  
※大区分のデータをもとに現況に合わせて加工。「市街地」は凡例から除いている。



### 3-3 社会条件

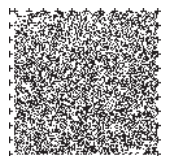
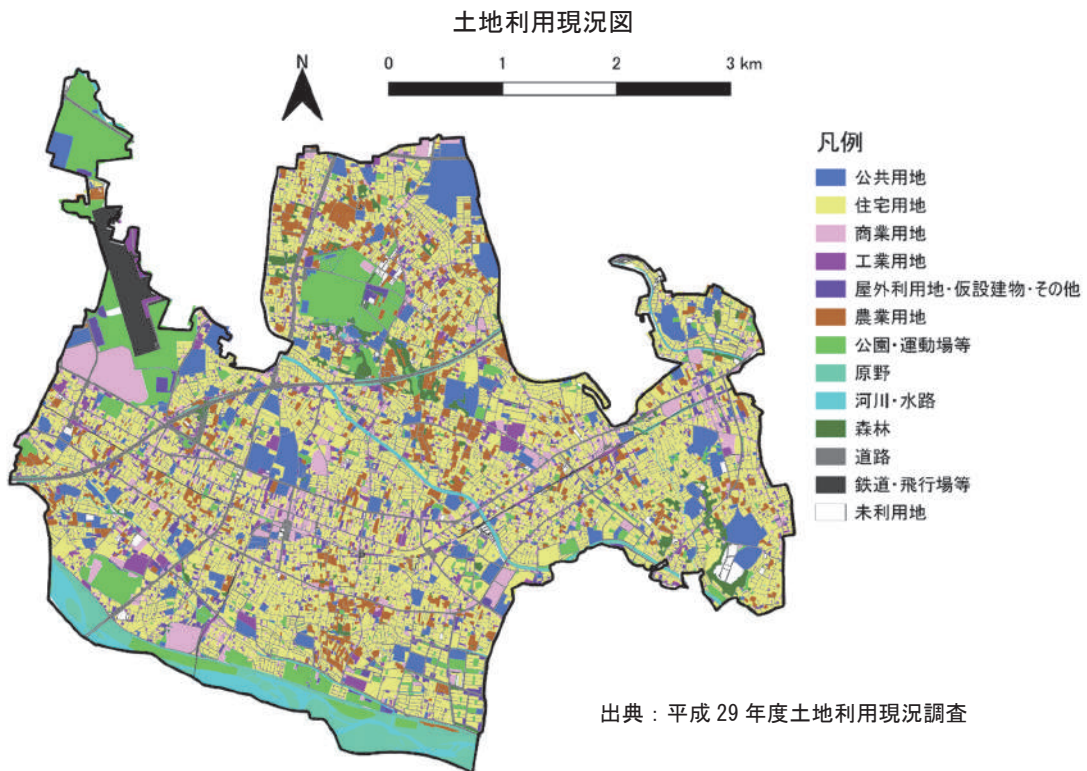
#### (1) 人口・世帯数

国勢調査結果では、人口・世帯数ともに増加を続けています。令和2(2020)年4月1日時点の住民基本台帳では、人口237,506人、世帯数は120,866となっています。



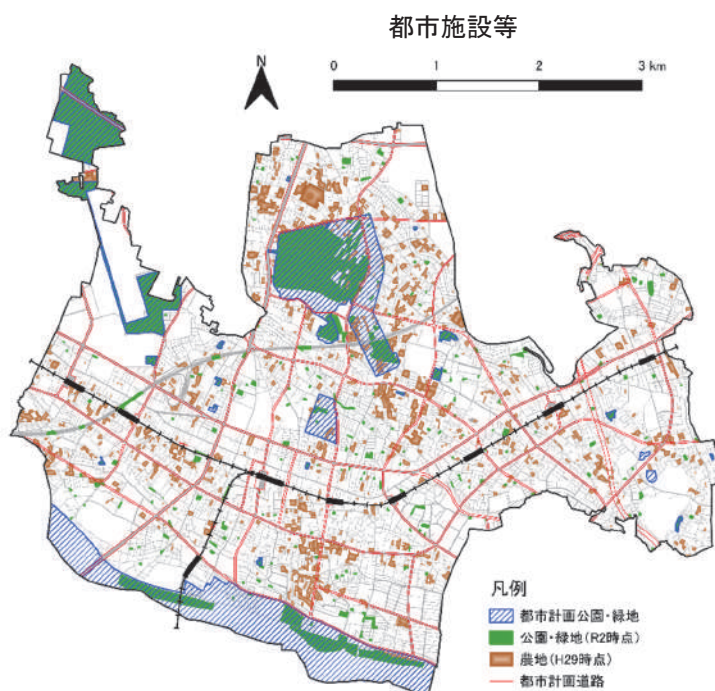
#### (2) 土地利用

本市はまちの発展と人口増加に伴う住宅開発の進展などにより、住宅用地が多く広がっています。また、国立大学や国の研究機関が立地しているため、公共用地も多くなっています。北西部の調布飛行場周辺や北部の深大寺周辺、南部の多摩川沿いには公園・緑地が多くなっています。その他調布飛行場や東京スタジアム（味の素スタジアム）などの商業用地の占める面積が大きいのも特徴です。



### (3) 都市施設

令和2(2020)年3月時点で、市内で供用済みの公園・緑地は319箇所、合計面積は約149haほどです。都市計画道路は縦横に計画されていますが、農地と重複する箇所もあります。



出典：平成29年度土地利用現況調査等をもとに加工

### (4) 都市基盤整備

本市では甲州街道沿いの地域を中心に13の地区計画があります。調布駅と国領駅周辺の2地区においては市街地再開発事業が、布田駅、国領駅、仙川駅周辺等では土地区画整理事業が実施されています。(いずれも令和元(2019)年度時点)



出典：国土数値情報をもとに加工

